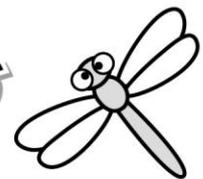


2010年度

自然遊学館わくわくクラブ



白木 江都子・日高 学

わくわくクラブは、貝塚市立自然遊学館と協働で自然環境活動を展開するボランティア団体です。都市公園市民の森内にある自然生態園の維持管理を中心に、身近な自然の復元を旨として、自然観察会・生きもの調査・情報の発信・次世代の育成などに取り組んでいます。

活動内容

● 自然生態園作業

2010年4月10日 参加者：25人

午前中トボの池周囲の杭を打ち替え、いつものように草刈りもしました。午後は2010年度総会を開催、会長は引き続き山口進さんにご無理をお願いし、副会長は鈴木佐幸さんに加え、日高佐知枝さんとの二人体制に、また新たに会計監査役を置き喜多理恵さんが就任、子どもたちの代表に日高向日葵さん、副代表に江本大地さんを選びました。

● フィールドブレ調査 阪南市貝掛の的場池

2010年4月29日 参加者：9人

調査方法の説明を聞き、胴長を着用して池の中からと池の周囲から30分間採集。1/17と1/31に標識を付けたミズカマキリの再捕獲個体数から、的場池での個体数を推定する方法を、向井康夫さんから教わりました。

● ムササビ巣箱作り 大阪府立少年自然の家

2010年5月2日 参加者：22人

9:30～12:10まで、子どもたちはノミを使って、北川敏喜さんが用意してくださった縦半分にした丸太を削ったりくり抜いたりしていましたが、見かねた少年自然の家職員の左神一也さんが、チェーンソーを持参して駆けつけてくださったので、急に作業スピードが上がりました。できあがった巣箱を、ムササビがすんでいる納屋(左神さん所有)の傍の木々に掛けさせてもらっていると、納屋の中のムササビが顔を出し、間近でじっくり観察することができました。



● 見学交流会高槻市芥川緑地資料館

2010年5月3日～4日 参加者：28人

北川さん運転のレンタルマイクロバスに、児嶋果樹園のハッサクを一杯積んで、高槻市芥川緑地公園で開催される高槻ジャズストリート会場へと向かいました。会場では、みんなでハッサクを剥いて、子どもたちが呼び込んでくれたお客さんに試食してもらいました。24ケースのうち半分を売るつもりが、好評で16ケースも売ってしまい、慌てて完売お礼の札を出して店を閉め、子どもたちを中心に高田みちよ学芸員に資料館のバックヤードを案内してもらいました。

●自然生態園作業

2010年5月8日 午前中 参加者：16人

トンボの池の水生物定量調査と草刈り、海辺の植物ブロックは植物調べと帰化植物抜きをしました。

●二色の浜の海辺の植物調べ

2010年5月8日 午後 参加者：26人

自然生態園作業を終えた会員の一部が、自然遊学館行事の二色の浜海浜植物調べに参加し、簡単な二色の浜地図上に、ハマヒルガオ・ハマボウフウ・オカヒジキ・ツルナ・コウボウムギ・コウボウシバの群落を書き込み、ハマゴウやホコガタアカザも数個体確認できました。子どもたちは採集した海浜植物をセロテープで地図上に貼っていました。

●里山再生 河台町農家の溝掃除に参加

2010年5月28日 参加者：4人

河台町フィールド周辺の農業従事者は、毎年5月に溝掃除をしておられるそうで、今までは土地所有者の秦さんが出てくださっていたが、今年はわくわくクラブ員が参加しました。

予想に反して少人数でしたが、溝の土を揚げたり、溝を塞ぐ草を刈ったりしました。終了後堰板を外して水が流されましたが、刈った草などが飛ぶように流れて行き爽快でした。

●フィールド調査 的場池

2010年6月8日 午前中 参加者：9人

集合時は雨が降っていましたが次第にあがり、それほど暑くもなく気持ちいい調査日でした。

昆虫調査は、岩崎拓さんほか2名で、15分間定量調査(すくい取り)をし、選りわけ、同定、記録後生物を池に戻しました。

採集生物の数が多く時間がかかりましたが、その後、調査者3人が土手で20往復のスweep調査も行いました。植物調査は、池の中・湿地・土手・小道側、と区割りし、上久保文貴先生が植物名を挙げていかれるのを、白木江都子が記録しました。急斜面に海岸地方特有の林が残っていますが、竹の侵入が気になります。

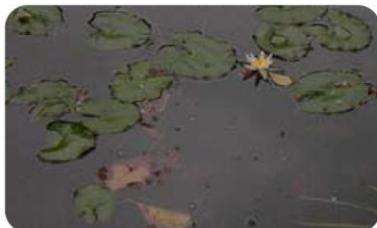
貝類調査：児嶋格先生が単独で、池の縁、草むら、落ち葉の中など丹念に調査されました。



●フィールド調査 阪南市俎板石山のタコ池

2010年6月8日 午後 参加者：9人

ヒツジグサの葉が水面のあちこちに見受けられ、道路沿いの岸からは清楚な花が咲いているのを見ることができました。道路山側に、おびただしい数の1cmぐらいの黒いものが動いています。よく見るとヒキガエルの幼生が、岩肌を登っているのです。



●フィールド調査 貝塚市馬場たわわの小池さらえ

2010年6月10日 参加者：10人

気温は28度と高かったのですが、水辺には大きな樹木があるのでさわやかでした。講師の3人の先生を中心に、水生生物定量調査・植物相調査・貝類相調査を実施し、手の余った人で池周辺の草刈りもしました。今まで樋の不具合で水が溜まらなかった池は、山口進会長がお一人で修理された結果、水を湛える元通りの池に戻り、ハスも健全です。近畿以西～九州に分布し、大阪府RDB[要注目種]のタチカモメヅルが池周囲3箇所で見つかったので杭を打って名前を記しました。



●フィールド調査 自然生態園 トンボの池さらえ

2010年6月12日 参加者：21人

恒例のトンボの池さらえを実施し、ヤゴの天敵退治は成果をあげましたが、石がひっくり返されるなどの被害もありました。

●フィールド調査 自然生態園

2010年7月10日 午前中 参加者：7人

モンドリを回収してザリガニを捕獲し、トンボの池の水生生物定量調査をしましたが、ザリガニとメダカをさらに捕獲しました。

●兵庫県佐用町昆虫館見学交流会

2010年7月10日 午後 参加者：22人

市役所駐車場集合の予定をしていましたが、行事を開催して入れず、急遽自然遊学館第2駐車場をお借りし、12:40出発しました。15:00過ぎに佐用町昆虫館に到着し、NPO法人こどもとむしの会の方から、昆虫館の概略・運営・周辺の自然環境と昨年の大水害の状況を伺いました。19:10兵庫県立人と自然の博物館の八木剛学芸員から、参加者全員にヒメボタルの講義があり、19:30頃になるとヒメボタルがあちこちで光り始めました。大人は、何千何百のヒメボタルが周囲の山の中で光るさまを、うっとり見とれていましたが、子どもたちは網で採集しようと走り回り、捕まえると観察もしていました。

●フィールド調査 自然生態園

2010年8月7日 参加者：9人

8月は、本来自然生態園作業はお休みですが、今年は生きもの調査の継続ということで、猛暑の中を水生生物定量調査をしました。

●全国トンボ市民サミット寄居町大会

2010年9月4日～5日 参加者：4人

9月3日21:00過ぎに大阪市内を出発する夜行バスで、埼玉県大里郡寄居町に向かいました。早朝森林公園北口駅に着き、大会開始まで散策しましたが、その暑かったこと。

13:00からエクスカージョンに参加、トンボに手厚い埼玉県内のあちこちの公園や湿地を案内してもらいました。

翌日の本大会は、「昆虫少年を育むために」がメインテーマ、希少価値になってきたトンボ少年を呼び戻す事例や今後の方法を熱く話し合いました。



●自然生態園作業 バッタの原っぱバッタ調べと鳴く虫の声をきく

2010年9月11日 参加者：24人

14:00からトンボの池の水生物定量調査をしました。池は渇水状態なので、15:50から貯水槽の水を池に入れ始めました。ハネビロトンボのヤゴを森本静子さんが初採集し、トンボの池のトンボは23種になりました。

16:00～17:30、雨の中をバッタの原っぱバッタ調べ、19:00～20:30鳴く虫観察会が実施されました。

●里山再生 河合町新フィールド下見

2010年9月12日 参加者：12人

岸和田市河合町の阪和高速道をまたぐ狐橋付近に車を置き、土地提供者の前田美千代さんの案内で現場まで歩きました。草刈りや周辺散策、探検、昆虫・植物採集、両生類(ヌマガエル・トノサマガエル)爬虫類探しなど、新しい土地でのこれからの夢を語り合いながらの楽しい一時でした。



●里山再生 河合町フィールド

2010年10月3日 参加者：14人

メダケ群落で覆い尽くされたフィールドを、まず北川敏喜さんが刈り払い機で伐採してゆき、大人は鎌・のこぎり・剪定ばさみなど道具を選んで、メダケやつる植物を切っていました。子どもたちは講師の西澤真樹子さんと一緒に、フィールド周辺の目印となる場所に「展望台」や「前田迷い坂」「メジロ畑」など名前を付けながら探検です。

雨が降ったりやんだりの天候でしたが作業を続け、終了前に車で水源池「河合の新池」を探しに行くことにしました。付近に近づいてからは車を降り、雨の中、上り坂をしばらく歩き、ワレモコウの咲く静かな水源池にたどり着きました。



●フィールド調査 自然生態園

2010年10月9日午前中 参加者：2人

午前中は雨でしたが、森本静子さんが定例のトンボの池水生物定量調査を行いました。

● 学習会 自然の見方教え方 ミニミニ発表会「泉南の池くらべ」

2010年 10月 9日 午後 参加者：21人

上久保文貴：泉南の池 ー植物の変遷ー
日高向日葵：自然生態園トンボの池さらえ ーアメリカザリガニー
江本 大地：自然生態園トンボの池さらえ ーメダカとグッピーー
児嶋 格：泉南の池と比較して ー貝から見たトンボの池の状況ー
岩崎 拓：前期泉南の池調査を終えて ー水生生物ー
森本 静子：ゲンゴロウやミズダニに魅せられて
向井 康夫：トンボの池の水生動物群集構造の特徴と他の池との違い
白木江都子：喜多理恵さんのトンボ写真
湯浅 幸子：馬場たわわの小池の植物 ータチカメツルなどー
白木 茂：調査の目ざすもの、調査から見えてきたもの

自分たちが調査に参加している池の話なので、興味深く聞くことができましたし、子どもの2件の発表も力作でした。発表しない子どもたちが、とても静かに聞いていました。



● フィールド調査 阪南市貝掛の的場池

2010年 11月 9日 参加者：9人

春に引き続き、講師の3人の先生をお迎えして泉南の池調査が始まりました。

水生生物定量調査・植物相調査・貝類相調査を実施したのですが、風が強く雨がばらつくなど、調査には辛い天候でした。枯れ葉か木片かと思えるマダラマルハヒロズコガの幼虫には驚きました。



● フィールド調査 阪南市俎石山の夕コ池

2010年 11月 11日 参加者：9人

水生生物定量調査・植物相調査・貝類相調査を実施しました。夕コ池は北に向かって流れる谷を、南側に堤を築いて堰き止めた池で、直接取水が行われていないので、砂防用のダム池と思われます。北側の池上部分は、土砂に埋まり、蛇行する細い流れが2本見られますが、上流域の中段に堤が作られたため、生きものの往来を遮断した構造となっています。夕コ池で掬い上げた腐葉や泥の中から生きものを探す作業に多くの時間を費やしました。植物相調査は、上久保文貴先生の後を湯浅幸子と白木江都子が追い記録しました。



●フィールド調査 自然生態園

2010年 11月13日 参加者：18人

水生生物定量調査は、日高学・森本静子・江本大地で実施しましたが、近ごろは小学校5年生の大地さんが調査者の常連になり、はやヴェテランの風格です。

●里山再生 河台町フィールド

2010年 11月14日 参加者：16人

各自気に入りの道具を持って、敷地境界線にある杉の大木を目ざし、ひたすらメダケを切り進みました。それをまた黙々と運び出す人、そうして積み上げられたメダケの山の中で自分の巣を作って遊ぶ子どもたち、いい光景でした。上段のメダケを完全に伐採するには至りませんでした。



●フィールド調査 たわわの小池さらえ

2010年 11月23日 参加者：28人

雨上がりで底冷えのする寒い一日でしたが、水生生物定量調査・植物相調査・貝類相調査を実施しました。午後には植物調査のみ続行し(上久保文貴先生・白木江都子・岸上和歌子)、他の人たちは池に入ってレンコンを掘り始め、まだまだストローぐらいの太さだったにもかかわらず、とても楽しんでいました。(ストローほどの太さのレンコンでしたが、ほとんどの人が、あんなに美味しいレンコンを食べたことがない、と絶賛)トンボの池の水生昆虫と同じ種類が多かったのですが、たわわの池の方が若干多様性が高いようです。



●フィールド調査 自然生態園

2010年 12月11日 参加者：21人

水生生物定量調査を実施した後、年末の大掃除、バツタの原っぱと海辺の植物ブロックの草刈りをしました。子どもの参加が多かったので賑やかでしたが、みんなよく手伝ってくれました。今回もハネビロトンボが採集され、このまま越冬してくれるようにと願いました。

●里山再生 河台町フィールド

2010年 12月19日 参加者：14人

上段のメダケ伐採が終わり、捨てられていたゴミも片付けました。下段のメダケ群は上段に比べ少なかったのですが、北川敏喜さんが刈り払い機を使って、ほとんど一人で伐採してくださいました。保田淑郎先生からハチが巣を作る竹が欲しいとお聞きしていたので、子どもたちが1mものを20本用意しました。

●見学交流会 堺市浅香「雑魚寝館」

2011年1月7日 参加者：6人

2月に行われる「小さいとこサミット」を意識して、堺市浅香にある淡水魚ミュージアム茶論「雑魚寝館」の見学会を企画しました。元中学校の校長先生で、ウナギの研究者でもある亀井哲夫館長の案内で淡水魚水槽を見学させていただきましたが、まず目に入ったのが文字通り目の赤いアカメ、飼育は難しいとされているそうですが、ここでは随分大きくなっていました。ピワコオオナマズなど、淀川水系や大和川産のナマズ、またタイムコンオオウナギなど外来生物も展示されていました。外来種とは、人為的に外国から持ち込まれた動植物のことで、明治時代以来約2,000種と考えられているそうです。亀井哲夫館長が私的に収集されているものを金曜日に限って一般公開し、水槽の清掃など維持管理には、淡水魚好きのボランティアが関わっておられると伺いました。上質の紅茶や、一工夫したウナギの料理、酒粕入りケーキなどをいただき、満ち足りた時間を過ごさせていただきました。



●フィールド調査 自然生態園

2011年1月8日 参加者：10人

水生生物定量調査を実施しましたが、今回は石井翔生愛君(小2)が胴長を穿いて初登場です。ハネビロトノボの幼虫は4匹確認できました。午後は自然生態園掲示物の掲示物を張り替えた後、小さいとこサミットの打ち合わせをしました。

●里山再生 河合町フィールド調査

2011年1月13日 参加者：11人

下段に直径2m、深さ30~40cm(底の粘土が現れるまで)の池をテスト的に2つ作ってみました。メダケ伐採も続けましたが、根が大きい上に数多く、力持ちの堀真治さんを悩ませました。北川敏喜さんを中心に下段の隅にトイレ小屋を完成させました。



●小さいとこサミット開催 開空交流館

2011年2月7日 参加者：60人

正午からオプションツアーで、自然遊学館と自然生態園の案内を始めましたが、申し込み者の大部分が参加され好評でした。午後1時開会、最初のプログラム「小さいとこ周辺の人々」は、滋賀県立東近江市能登川博物館の西邦和さん、岸和田市きしわだ自然友の会の図師宣忠さん・川島明子さん、自然遊学館わくわくクラブの岩崎拓さんに話題提供をしてもらいました。休憩後は「観察会における外来種の扱い方」を、佐藤拓二さんのコーディネートで、会場から活発なご意見をいただきました。17:30からの交流会は自然遊学館2F旧レストランに移り、わくわくクラブジュニア3人の今年度活動報告が喝采を受け、クラブ員の手づくりご馳走を含め、参加の皆さんにとっても喜んでいただきました。



●フィールド調査 自然生態園

2011年2月12日 参加者：7人

積もった雪が少し残るトンボの池で、恒例水生生物定量調査を実施しましたが、残念ながらハネピロトンボのヤゴは確認できませんでした。死んでしまったのでしょうか。

●里山再生 河合町フィールド 平板測量

2011年2月13日 参加者：13人

知人から譲り受けて解体した倉庫を、フィールドの下段奥に移設しました。1月末に北川敏喜さんと白木茂によって運び込まれていたため、建設は北川敏喜・白木茂・堀真治・喜多俊行の男性陣が担当し、他の人たちは池の試掘やメダケを燃やしました。作業が終了してから、北川敏喜さん・白木茂が中心になって平板測量を行い、年長の子どもたちも操作方法や原理を習い、下段の面積は200㎡と測量しました。



●ミーティング 今後のわくわくクラブ

2011年2月26日 参加者：9人

助成金の報告書作りや次年度助成金申請、また次年度の総会を前にして、わくわくクラブの活動を整理し、活動をどう展開してゆくかを話し合いました。3月12日に役員会を開催し、4月9日に総会を実施することに決めました。

●フィールド調査 自然生態園

2011年3月12日 参加者：12人

トンボの池では水生生物定量調査と周辺の草刈り、ドングリの森の草刈りもしました。

●里山再生 河合町フィールド

2011年3月20日 参加者：7人

山口進会長ご夫妻に河合町フィールドへ来ていただき、これからの整備方法を相談しました。田んぼをするには手がかかるので、畑の方が可能性があることや、竹の根は何をするにしても邪魔になるので、掘り起こして取ってしまわないとダメなこと、隣の敷地との境界付近をきれいにすること等の助言をいただきました。

●ハッサク山作業

場所：紀ノ川市桃山町黒川 通称向山の兒嶋果樹園

日時：原則として第1火曜日 9:30～17:00

4月13日 参加者 4人 果実出荷手伝い。
4月29日 参加者 10人 的場池調査の後果樹園に向かい、5月3日～4日に行われる高槻ジャズストリートで販売するハッサクを、20コンテナ用意した後、落ち葉や土が溜まった道端を掃除。
5月11日 参加者 6人 午後果実の最終整理、選別して袋詰めし、新聞紙や段ボール箱は焼却。



- 6月 1日 参加者 6人 古いハッサク小屋を掃除、タヌキの糞発見。
 7月 6日 参加者 6人 各木にナンバリングをし本数調査をしましたが、下段上段合わせてちょうど100本。
 7月28日 参加者 4人 摘果と草刈り。
 9月14日 参加者 5人 摘果。キウイの生長が縦横無尽すさまじく、ハッサク救出のため剪定。
 10月 5日 参加者 6人 イノシシ被害を防ぐために、溶接金網と鉄筋で境界線上に防止柵を設置。傾斜がきつく、立っているのがやつの場所がほとんどで、重い材料を運ぶのも大変。
 10月14日 参加者 4人 防猪柵作り 向山。
 10月18日 参加者 4人 防猪柵作り 向山の作業終了。
 10月20日 参加者 5人 防猪柵作り 児嶋山荘の果樹園周囲。
 11月 2日 参加者 4人 防猪柵作り 午前中向山の手直し、午後児嶋山荘の果樹園周囲。
 11月24日 参加者 3人 動噴機置き場作り。
 12月 7日 参加者 6人 ハッサク小屋整理。
 12月19日 参加者 12人 果実収穫と選果 ハッサク購入常連客の「ふれあいゆう葛城」の方々が、果実収穫の手伝いに。
 12月23日 参加者 18人 果実収穫と選果。
 9:20から収穫班・運搬班(剛力班)・選別班・倉庫収納班に分かれて収穫作業開始。各班連携しながらの作業は効率よく、1本ずつ確実に収穫してゆくことで、達成感もあり、夕暮れまでに下段の収穫を終える。
 12月26日 参加者 6人 穫り残した果実を収穫と選果。
 1月11日 参加者 6人 道路端に溜まった腐葉やゴミを掃除。
 2月 1日 参加者 4人 販売用ハッサク袋詰めとキウイの剪定。販売用ハッサクを多量に積んだためか、山中で白木号がパンク。修理屋さんへ修理工場まで運んでもらう。
 2月17日 参加者 5人 作業は午後のみ、販売用ハッサク袋詰め。
 3月 1日 参加者 2人 販売用ハッサク袋詰めと廃材燃やし。
 3月 6日 参加者 5人 販売用ハッサク選果、木剪定。
 3月16日 参加者 2人 3月11日に起きた未曾有の東北大震災現場へ、泉佐野公園緑化協会の福島事務局長が救援物資を届けるというので、手持ちのわくわくハッサク20kgを託す。
 3月26日 参加者 2人 東北大震災被災地岩手県大槌町でCCP(パレスチナ子どものキャンペーン)の一員として震災救援活動をしている、わくわくクラブ員小川信夫さんが、東京まで乗用車で行くというので、支援用ハッサクを30個×20袋詰め。



● 近木川定点観測

場所：大阪府二色の浜公園 臨浜潮騒橋の上から河口側の干潟写真撮影



2010年 4月:湯浅幸子



2010年 6月:日高佐知枝



2010年 8月:江本玲子



2010年10月:岡田尚子

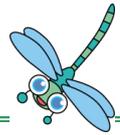


2010年12月:喜多理恵



2011年 3月:城野美姫子

自然遊学館わくわくクラブ



わくわくクラブ ってなに？	貝塚市立自然遊学館のボランティアグループです。		
なにをするの？	ポイント1. トンボの池など自然生態園をつくっていく作業		
どんな ボランティア活動 があるの？	ポイント2. 自然に関係あるボランティア活動への選択参加		
	① 自然生態園／つくっていきます 「雨水のみ」「人力のみ」「粘土貼り」「貝塚産」の4つのコンセプトにこだわり、ワイワイガヤガヤと1997年から毎月1回、水生昆虫調査や維持管理活動を続けています。		
	② 自然遊学館事業／手伝っています 自然生態園に関わる事業や、自然観察会、館内展示などのサポーター活動を行っています。		
	③ 自然観察会／企画や運営をします 「トンボの池」のヤゴ（トンボの幼虫）やゲンゴロウなどの調査や二色の浜の打ち上げ貝類調査、植物調査など身近な自然の調査、泉南の池でのヒメミスカマキリ、淡路成ケ島のハマボウ林などに触れて、見て感激です。		
	④ 果樹園／体験しています 人間の手によって自然を保ってきた果樹園。紀ノ川市黒川の奥山でハッサクやカキの栽培を手伝っています。自然と人間との関係を体験しています。		
	⑤ 見学交流会／学びます 各地の博物館やビオトープなどのイベントに参加し、展示方法や再生された自然など、現地見学や活動しているボランティアの皆さんとの交流を図っています。		
	⑥ 「里山の自然」／再生しようとしています 多様な自然を保ってきた里山地域の田んぼや畑、竹林なども荒れ放題。「どこが田んぼ？」の今をカエルやタガメのいた昔に戻したいのです。		
	⑦ 自然の力／記録しています 川から流れ込む水勢、潮の干満、大阪湾の潮流、波浪、防波堤の形状などで、貝塚市を流れる近木川の河口干潟は刻々と変化しています。自然は偉大です。二色の浜潮騒橋から2ヶ月に1回写真撮影しています。		
⑧ その他／やります出かけます 自然に関わる面白そうなことを企画したり、要請があればボランティアとして出かけます。たとえば、カラスやツバメの「ねぐら」さがし、ムササビの巣作り、ビオトープづくり、サギのコロニー観察、アカガエルの卵しらべ、次世代人材育成、……。			
お金はいるの？	連絡（おもにメール）費用として、1人年間100円です。		
だれでも入れるの？	中学生以上。小学生・幼児は保護者（会員）のつきそいが必要です。		
はいるには？	自然遊学館まで。 Tel.072-431-8457		



どんな
ボランティア活動
があるの？

裏もみてね……

